

散策の会

2023年9月 例会報告

寺坂棚田

9月26日（火） 晴れたり曇ったり

- ★ 今年は気象観測史上最も暑くて長い夏であった。9月中旬になっても真夏日が続くので、散策の会は中止にした方がよいのではないかと思案していると、22日頃からようやく凌ぎやすくなってきた。この日はやや蒸し暑かったが、曇りがちで歩くのには都合が良かった。
- ★ 集合場所の所沢駅に集まったのは9人、10時13分発の電車に乗り、飯能駅で秩父線に乗り換えた。電車は平日にもかかわらず満員であったが、ほとんどが巾着田の彼岸花を見に行く人たちで、高麗駅から先はゆっくり足を伸ばすことが出来た。横瀬駅には予定通り11時28分に到着した。
- ★ 駅前の道を400mほど行くと右手に横瀬町役場があり、その先が飯能と秩父を結ぶ国道299号線である。右折して国道を飯能方向へ進み、町民会館前の信号を左折すると図書館や歴史民俗資料がある。その道を行くとやがて緩やかな登り坂となり、両側には畑が広がっている。30分ほど歩くと右手に広場があり、その先に棚田が広がっている。



棚田へ向かう道



蕎麦の白と彼岸花の赤

- ★ 棚田の半分ほどは既に稲刈りが終わっていて、半分はこれからという状態であった。畦道には彼岸花が咲いているが、やや盛りを過ぎたという感じの花も見受けられた。棚田の中の道を登って行くと小さな東屋があり、ここから棚田の全景を見渡すことが出来る。棚田の先には武甲山がドーンと座っている。なかなか雄大な眺めである。



稲刈りの終わった田んぼ



稲刈りの終わっていない田んぼ



棚田の向こうに武甲山

★ 事前に横瀬町観光案内所に電話して、弁当を食べられるような広場があるか問い合わせたら、あるという返事だったが、実際に来てみると小さな屋根の東屋と丸太を切っただけの椅子が6脚ほどあるだけである。しかも先客がいたので、我々は畦などに腰を下ろして弁当を食べた。それでも棚田と武甲山を眺め、秋風に吹かれながらの食事は実に旨かった。12時半に武甲山で発破の音がして煙が上がるのが見えた。

★ 1時に棚田を出発し、里山の道をのんびりと歩く。路傍には「まむしに注意！」という看板が立っている。町民グラウンドの手前で左折して緩やかな坂道を下ってゆくと、やがて横瀬川に架かる横瀬大橋である。川は橋のはるか下を流れていて、川岸には民家が立ち並んでいる。前方には相変わらず武甲山がどっしりと構えている。橋の上から手の届きそうなところに山くるみの実がたわわに実っている。



横瀬大橋から見る武甲山と横瀬川



横瀬大橋脇の山くるみの木

★ 横瀬大橋を渡ると民家が立ち並ぶ住宅街となる。どの家も庭が広くてよく手入れされている。横瀬中学校を過ぎてしばらく行くと国道299号線に出て、右折すると間もなく秩父市に入る。緩やかな下り坂を行くと、右手に秩父11番札所・南石山常楽寺がある。曹洞宗の寺で行基菩薩が彫刻した十一面観世音菩薩が本尊だという。



常楽寺参道



常楽寺本堂

★ 常楽寺から1kmほどで西武秩父駅に到着した。時間はまだ2時を少し過ぎたところである。時間が早すぎるので居酒屋はまだやっていないし、くるみ蕎麦の美味しい蕎麦屋はアルバイト店員が骨折していて臨時休業だという。仕方なく駅のフードコートでビールなどを飲みながら一休みしてから解散した。



今回は二人の俳人の方から俳句を頂きました。

曼珠沙華 棚田の彼方 武甲山

踏まないで 棚田の畔の 彼岸花

稲架の穂の 香り芳し 棚田道 金子正男

盛り過ぎ 彼岸花をば 美しく

稲架の上 稲架重なりし 棚田かな

武甲山 がぶりと齧る 鮭むすび 桑田青三

参加者 馬道 哲、勝山成男、金子正男、桑田制三、小島恕雄、中島克三夫妻、
原田一彦、水野 聡 以上9名

写真と文 小島恕雄